



満開の花をつけた枝を 精一杯広げる桜に 人それぞれの なつかしい思い出がある
また、私には 桜と共にもう一つ人一倍愛着がある春の花がある。
里山の斜面の雑木林の中 風に身を震わせて立つ春の妖精「カタクリ」の花」



満開の花をつけた枝を 精一杯広げる桜に 人それぞれ 思い出がある
神戸の市街地 再度山山裾の富台 水の科学館(奥平野貯水池)
樹齢約70年の大きな一本桜「舞桜」が、今年も満開の花をつけました。2016.4.4.

春の妖精 カタクリの花 2016

花言葉は「初恋」「耐える」

地球氷河期の生き残り
8年かけて地表に顔を出し
山腹の斜面で冷たい風に身を打ち震わせ
て立ち向かう姿に心を揺さぶられる

今年も元気な姿に出会えました

桜の便りが届きだすと毎年出会いに行く
佐用だたらの里のカタクリの花

春一番の楽しみ カタクリの花との出会い
その愛らしい姿にじつと目を凝らす



千種川が流れ下る西播磨佐用町 三日月町「弦谷」& 東徳久 殿崎 カタクリの群生地で 2016.4.5.

- ◆ 神戸の春の海からの贈り物 「イカナゴ」漁と西播磨相生・室津の殻付き牡蠣
- ◆ 早春の大阪街散歩& 淀川3河川(桂川・宇治川・木津川)合流点 背割り堤
- ◆ 3月27日 復活日(イースタ)
- ◆ 西神戸の里での例年の土筆とり & 久しぶりの春選抜野球の応援に
- ◆ 神戸でも 桜も咲き始め 野も街も桜満開 春爛漫に
 - ◎ 神戸奥平野の「舞桜」と神戸市民の山 再度山の山桜
 - ◎ 西播磨 佐用町漆野の「大糸桜」と姫新線千種川沿い桜堤
- ◆ 毎年春になると一番出会いたい 山の斜面で身を震わせる春の妖精「カタクリ」

3月から4月初めにかけて早春から春爛漫に。野山も里も草木萌え 目まぐるしく移り変わる春景色
生命観あふれる自然の中に飛び込んで、春を楽しむ

私の毎年の春迎え 戸外に飛び出して 元気いっぱい うれしい季節になりました

神戸近郊の春景色 walking を短いスライド動画とPhoto アルバムにしました



イカナゴは夏眠する珍しい魚

神戸の春の風物詩「イカナゴ」

今年は暖冬がたたって 大阪湾の水温が高く、大阪湾を回遊するイカナゴの稚魚が極端に少なく、不漁。高値を呼んで 毎年神戸ではイカナゴの釘煮の話題で盛り上がるのですが、今年は不発。

でも、店先には例年ほどではありませんが、釘煮にするイカナゴを求める行列ができていました。



2016.3.12. 明石魚の棚で

ところで 「イカナゴは1年の半分近くを寝て過ごす夏眠する修正を持つ珍しい魚」と砂の中から頭を出す写真入りで新聞に掲載されていました。イカナゴは、もともと寒い北の海の魚で、お正月前後が産卵期 卵は明石海峡や紀淡海峡近くの海底の砂つばに産み付けられ、10日ほどでふ化。 海の流れに乗って大阪湾内に広がり、海中のプランクトンを食べながらぐんぐん大きくなり、2月下旬から3月初めになると、体長3cm程に成長。 それを待って 春の風物詩イカナゴ漁が始まるのだと。

生き残ったイカナゴは 水温が高くなる6~7月頃になると、体力の消耗を避けるため、海底の砂の中に潜って活動を停止する。これを「夏眠」と呼ぶという。

イカナゴはそれ以後 餌も食べず、12月まで砂の中でじっとしている。

この習性は、彼らが北の海から南へ分布を広げるために身につけた、暑い夏を乗り越えるすばらしい戦略。そして、12月頃になって水温が下がってくると、イカナゴは砂の中から出てきて、産卵をおこない、満1才で親になるという。

今年は 一説によると今年は大阪湾の海水温が高いために、大阪湾に入る イカナゴが極端に少なくなったのだと。 無数のイカナゴが砂から頭を出している写真を見ながら「イカナゴは生き延びるため すごい戦略を持っているのだ」といままらながらびっくり。 高山植物などの植物の生き残り戦略の話はよく聞かいて 知っていましたが、魚にも こんな生き残り戦略がある。

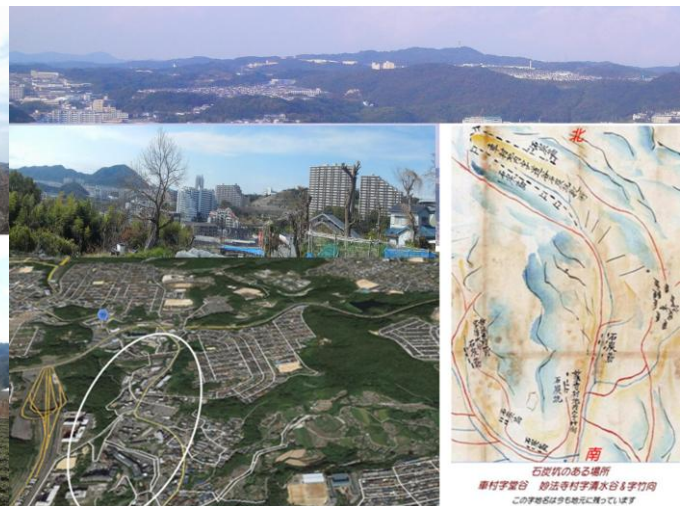


一度歩いてみたかった 桂川・宇治川・木津川の合流点 淀川の背割堤 2016.3.16.

1.4kmにわたって 淀川の合流点の中州に築かれた堤今は鶯がのどかに 鳴き声の練習中 もう春がすぐそこ

でも 4月には左写真のように桜のトンネルに







春爛漫 神戸 奥平野の舞桜も満開に 2016.4.4.



満開の花をつけた枝を 精一杯広げる桜に 人それぞれ 思い出がある

神戸の市街地 再度山山裾の高台 水の科学館(奥平野貯水池)
樹齢約70年の大きな一本桜「舞桜」が、今年も満開の花をつけました 2016.4.4.



再度谷川の桜並木 2016.4.4



水の科学博物館の横を流れ下る再度谷川岸の桜並木 神戸市兵庫区で



水の科学博物館 2016.4.4



再度谷川沿い大師道を遊んで 再度山大蔵寺へ 2016.4.4.
再度山の山桜を眺めに行く



春の妖精 カタクリの花 2016

花言葉は「初恋」・「耐える」

地球氷河期の生き残り
8年かけて地表に顔を出し
山腹の斜面で冷たい風に身を打ち震わせ
て立ち向かう姿に心を揺さぶられる

今年も元気な姿に出会えました

桜の便りが届きだすと毎年会いに行く
佐用たたらの里のカタクリの花

春一番の楽しみ カタクリの花との出会い
その愛らしい姿にじつと目を凝らす



千種川が流れ下る西播磨佐用町 三日月町「弦谷」& 東徳久 殿崎 カタクリの群生地 2016. 4. 5.



西播磨佐用町旧三日月町・姫新線に沿って流れる志文川堤の郷 2016.4.5.



春のたたらの里 西播磨佐用町徳久を流れ下る千種川 2016.4.5.



東徳久 殿崎 カタクリ群生地で 2016.4.5.



東徳久 殿崎 カタクリ群生地で 2016.4.5.



西播磨佐用町旧三日月町 姫新線に沿って流れる志文川堤の桜 2016.4.5.



西播磨佐用町 漆野 光福寺 樹齢300年を越す大糸桜 2016.4.5.



西播磨佐用町 漆野 光福寺 樹齢300年を越す大糸桜 2016.4.5.

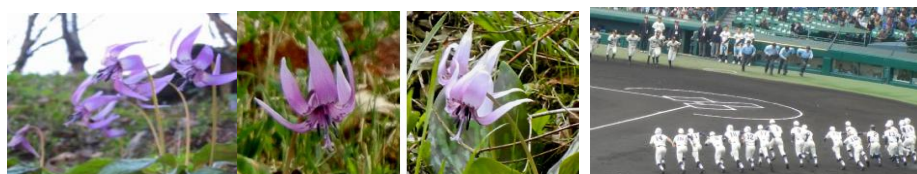


西播磨佐用町 漆野 光福寺 樹齢300年を越す大糸桜 2016.4.5.

どこかで 春が生まれてる 新しい出会いと出発の4月を迎える

花の香りが漂う春に胸膨らませ、仲間の元気を活力に!!

時には助けてもらいながら わが道を前向いて



2016.4.5.

by Mutsu Nakanishi